

イスラエル・ユダヤ・中東がわかる隔月刊雑誌

みるこす

No.181

4

2022

❖ インタビュー

新時代のリアリズム外交

山谷えり子



❖ 日本の非常識からみた中東の非常識
イスラエルから見た日本
滝川義人



イスラエルの大地に咲くひまわり

あなたの未来には希望があると主は言われる。
息子たちは自分の国に帰って来る。（エレミヤ書 31 章 17 節）

《42 頁～「ひまわり」参照》



ミルトスはイスラエルに育つ低木。常緑でその葉は芳香を放ち不死と成功の象徴とされた。(イザヤ 41:19)

■ 中東・イスラエル情報

■ インタビュー ■

新時代のリアリズム外交 —— 山谷えり子 5

■ イスラエル 多角多論 ■

ロシア・ウクライナ戦争とイスラエルの葛藤 —— 齋藤真言 12

■ 日本の非常識からみた中東の非常識 ■

イスラエルから見た日本 —— 滝川義人 20

■ 新刊紹介 ■

イノベーションの国イスラエル —— アビ・ヨレシュ 26

■ 日本・イスラエル コラボレーションの道 ■

UAE・日本・イスラエル 協力の可能性と意義 —— 新井 均 34

● 聖書・歴史

● サムエル記講話 ●

ゴリアトとの戦い —— ラビ・ベニー・ラウ 52

● 目からウロコの新約聖書 ●

現代ギリシア語で読む新約聖書(1) —— 藤原豊樹 59

● 一つの神と三つの宗教 ●

キリスト教の理想と現実 —— 塩尻和子 64

▲ エッセイ

▲ 聖書の世界 エッセイ ▲

ひまわり —— 池田 裕 42

▲ イスラエル御馳走帖 ▲

トゥ・ビシュバット —— 越出水月 50

▲ 知っておきたい中東・イスラム ▲

ハラールとコーシェル —— 光永光翼 74

表紙の絵：「イサクはネゲブの地に住んだ」(ネゲブ、創 24:62)【画・藤井克之】

ユダヤのユーモア 4

教えて！ヘブライ語 40

ブックレビュー 33

シネマレビュー 78

声のひろば 80

編集後記 82

新時代のリアリズム外交

山谷えり子

《INTERVIEW》

【編集部より】イスラエルでは「ホロコースト記念日」(ヘブライ語でヨム・ハシヨア、今年は4月28日)が独立記念日の1週間前に来るが、国連は1月27日を「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」と定めている(アウシュヴィッツ解放日、2005年に制定)。今年2月1日、日本とイスラエルの国会が共同でこの日を記念し、第二次世界大戦中にユダヤ人を支援した日本人へ感謝状を授与する特別式典が、オンラインで開催された。この式典に参加された山谷えり子参議院議員に話を伺った(3月16日)。

▼4名の日本人に感謝状▲

——どのような式典だったのか、様子をお聞かせください。

山谷えり子 「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」にちなんで、イスラエルと日本の友好議員連盟のメンバーが、史上初の式典をオンラインで行ないました。イスラエルの友好議員連盟のほうから、4名の日本人の英雄的行為を称え感謝状が授与されました。その4名とは、ユダヤ人数千人にビザを発給し

た外交官の杉原千畝さん、ナチ政権が迫るリトアニアから逃れた学生300人を支援した小辻節三さん、正式の書類を持たないユダヤ人に対し



贈られた感謝状

イスラエル多角多論 48

ロシア・ウクライナ戦争と イスラエルの葛藤

齋藤真言

2月24日早朝に開始されたロシア軍によるウクライナ侵攻は、世界の目を一瞬にして東ヨーロッパへと釘付けにした。イスラエルはウクライナから南に約2000 km離れているが、時差がないのもあってウクライナから届く映像にはよりリアル感が漂う。第三次世界大戦の勃発かと囁かれ、刻一刻と届くウクライナからの映像を固唾を吞んで見守った。

2月初旬、軍事演習と称してロシア軍がウクライナ周辺に大規模集結

し始めると、イスラエル国内でも懸念が広がった。ウクライナには約1万2千人のイスラエル国籍保持者と、10万人以上のユダヤ人が住んでいるからだ。1990年代、ソ連崩壊に伴い100万人以上(当時のイスラエル人口の約15%)の「ロシア人帰還者」がイスラエルに移住した。最も多かったのがウクライナとロシアからで、それぞれ約30万人ずつと言われている。帰還者の親族の多くは今もなおウクライナやロシアに在

住しており、イスラエルにとって両国は身近な存在なのである。

そんなイスラエルが今回のウクライナ危機をどう見ているのか、現地の様子をお伝えする。

雨滴をかいくぐる曖昧戦略

北京2022オリンピックが閉幕した翌日の2月21日、ロシアはウクライナ東部のドネツク地区とルガンスク地区を独立国家として承認し、ロシア軍を派遣。イスラエルはキエフにある大使館を西部のリヴィウへ移動することを発表し、ウクライナに滞在するイスラエル人へ直ちに国外退避するよう促した。エルサレムでは対応の協議が続いていたが、欧米諸国から素早く出された非難声明とは裏腹にイスラエルは苦慮していた。「歴史的に正しい見地に立つ」と表明したが、ベネット首相は閣僚

日本の非常識からみた中東の非常識

イスラエルから見た日本

——コーネル教授の日本論

滝川義人

今月号は少し趣向を変えて、日本人のユダヤ人観やイスラエル観について直接イスラエルの研究者から意見を伺うことにした。お話をいただくのは、ハイファ大学前アジア学科長のロテム・コーネル教授。イスラエル日本学会の前会長で、イスラエルにおける日本研究の第一人者である。

コーネル教授は、ヨーロッパの日本人種論の変遷を研究した著書第一巻『白から黄色へ——ヨーロッパ人の

人種思想から見た「日本人」の発見 1300年〜1735年』の日本語版が二月に刊行され、第二巻資料の補足調査のため、来日中。『対馬——日本海海戦の再評価』の日本語版も予定されている。

○日本に関心を持つきっかけ

滝川 コーネル先生は、イスラエルの日本学会を率いる研究者のおひとりですが、日本に関心を抱かれたとき

たきがわ よしと ●アラブ・イスラエル軍事紛争の研究者。イスラエル大使館前チーフインフォメーションオフィサー、中東報道研究機関(MEMRI)日本代表。ミルトス刊の著書に『日本型思考とイスラエル』、訳書に『深淵よりラビ・ラウ回想録』『甦りと記憶』『ケース・フォー・イスラエル』他多数。

っかけは、何ですか。

コーネル教授 生まれつき日本に関心がある人などいません。ほかの国についてもそうですね。それでも私の場合、かなり幼い頃から、関心を持ち始めました。高校の教師だった父親は、今は故人となりましたが、ヨーロッパのホロコーストに辛くも生き残り、イスラエルで海軍将校になった人で、歴史、特に第二次世界大戦史に、それこそ憑かれたように、強い関心を持っていました。家は、この関連の本で一杯でした。このような環境でしたので、私は少年

イノベーションの国イスラエル

—世界を変えた15の物語

アビ・ヨレシユ（横田勇人 訳）



新刊の「序章」を
本誌で紹介

アアンドームの威力

二〇一四年七月八日、エルサレム郊外のデコボコ道を車で走っていた時のことだった。セキュリティのために設けられた検問所を通り過ぎた後、カーラジオからけたたましい警戒音が鳴り響いた。私は思わず、後部座席で眠る幼い息子のほうを振り返り、同時に恐怖で膝が震えるのを感じた。ここ数週間、パレスチナのイスラム武装組織ハマスとの戦争

が始まるのではとの噂が絶えなかった。イスラエル軍がイスラム武装組織を標的とした軍事作戦を始めていたからである。ハマスはその「憲章」でイスラエルを抹消してイスラム国家を樹立すると謳う組織であり、何年にもわたって地下トンネルを利用してエジプトから武器や物資を密輸していた。

夕方六時半頃、並木が生い茂る安らかな道を選んで無事に自宅に帰り着き、息子のオレンをベッドに寝かせ

た。しばらくすると、予想したとおり空襲警報のサイレンが物悲しく鳴り響いた。その最初の夜、ハマスはテルアビブとエルサレムにM75ミサイルを何発も打ち込んだ。このイスラエルの二大都市が攻撃の射程距離に入ることを想定していた人は少なかった。

四階下にあるシェルターまで息子を抱えて降りたが、息子は怯えている様子だった。イスラエルやパレスチナ自治区であるガザでも、同じよ

UAE・日本・イスラエル

協力の可能性と意義

新井 均

去る1月18日に、日本の経済産業省、アラブ首長国連邦（UAE）経済省、イスラエル経済産業省、ジエトロ（日本貿易振興機構）の共催で「UAE-Japan-Israel イノベーショナル・フォーラム」というオンラインセミナー（ウェビナー）が開催された。2020年のアブラハム合意以来、中東情勢が新たな局面に入ったことを受け、協力関係を再構築していくという3カ国政府の共通の思いを元に企画されたイベントである。ジ

エトロによれば、本イベントは1年前に企画されていたが、コロナ禍の影響で延び延びになり、やっとオンラインでの実現にこぎつけた。その内容は次のとおりである。

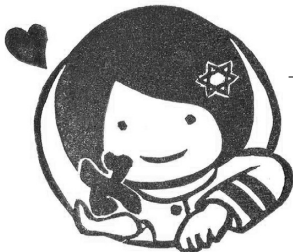
- 基調講演 アブラハム合意の経済的ポテンシャル
- パネルディスカッション
① 3カ国連携のポテンシャル——ビジネスの有望分野
- ② イノベーションによる新事業の

創出——民間の取り組み

今回はその要点を紹介するが、本ウェビナーは録音・録画、コンテンツの二次利用が禁止となっていたため、本稿は講演中に取った筆者のメモと記憶とを元にしており、文責は筆者に帰することを付しておく。

新たなパートナーシップ

まずアブラハム合意について簡単に振り返っておこう。トランプ前アメリカ大統領の仲介により、202



主の使いがアブラハムを止めたのはいつ？

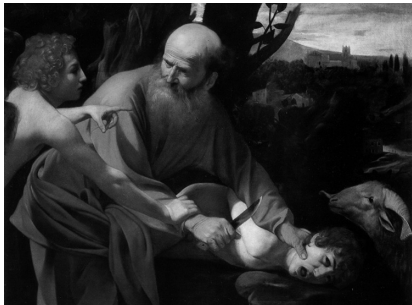
Q.29

スタンプアート：
〈ごっどもみるく〉
GOD MILK

みさとさんの素朴な疑問に、ヘブライ語のオゼル先生が答えるコーナー

オゼル先生 みさとさん、熱心に何を見ているのですか。

みさと カラヴァッジオが描いた「イサクの犠牲」の絵です。



先 イサクの恐怖の表情がすごい迫力で、緊迫感が伝わってきますね。ただ、この絵は聖書の内容と少し違っているのではないかと感じます。

み どうしてですか。アブラハムはイサクを捧げようとしてましたよね。

先 はい。それを主の使いが止めたわけですが、問題は止めるタイミングがいつだったのかです。

み この絵を見る限り、イサクを殺す寸前に止められた感じですね。

先 聖書にはどう書いてありますか。

み 「そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。そのとき、天から主の御使いが……」（創世記 22:10~11、新共同訳）です。

先 では対訳を見てみましょう（下参照）。10節の直訳は「そしてアブラハムは彼の手を伸ばし、そして刃物を取った。彼の息子を屠るために」です。その後、11節で「すると主の使いは天から呼びかけた」となっています。つまり、アブラハムが刃物を取ったところで主の使いが止めているように読めます。この絵のように、刃物をイサクに向けるまでには至っていないように思えるのです。アブラハムの行動はあくまで「手を伸ばして刃物を取った」までです。「屠るために **וַיִּשְׁחַקְרִישׁוּ** ほット」という動詞は不定詞に前

בְּנֵי	אֶת־	לְשַׁחֵט	הַמַּאֲכֵלֶת	אֶת־	וַיִּקַּח	יָדוֹ	אֶת־	←-----
一ノベ	トツエ	トツほユシリ	トツれへアマハ	トツエ	ふカイアヴ	一ドヤ	トツエ	
子息の彼	を	にめたる屠	物刃	を	たっ取てしそ	手の彼	を	
尾・単男	前	不パ・前	単女・冠	前	単男3未パ・倒	尾・単女	前	

וַיִּשְׁחַקְרִישׁוּ
一ノベ トツエ
子息の彼 を
にめたる

ひまわり

池田 裕

●“絶望” という名の選手

2月に北京で行なわれた冬季オリンピックでは日本人選手たちの活躍が見られたが、女子フィギュアスケートではロシア選手がメダルを独占するのではないかというのが前評判であった。その中でも金メダル候補に挙げられていた15歳の選手は、生まれ持った手足の長さや身体のしなやかさ、技術の高さ、演技の美しさ等、あらゆる点で他を圧倒、その練習の様子を見た他の選手に、そう、たとえその選手に親からもらった「希望」や「望み」という立派な名前があったとしてもやはり、「あゝ、自分とはとてもかなわない」と諦めや絶望の感情を抱かせてしまおうだろう、というロシアチームの戦略もあってか「絶

望」というニックネームで呼ばれていた。

その「絶望」選手は予想にたがわず、最初のショートプログラムで1位、他の2人のロシア選手がそれに続いた。ところがその間に、「絶望」選手の体内から（持久力向上、疲労軽減、酸素の効率的な取り込みをはかる）薬物3種が検出されていた疑いがあることで、周囲が急に騒がしくなる。そして、本番のフリー最終組の最後に「絶望」選手が颯爽と登場。だれもが固唾をのみながら見守るその華麗な演技。と、突然、「絶望」が転倒、それも3度、という考えられないハプニングが起きた。啞然とする周囲、激怒するロシアのコーチ。結果的に、「絶望」選手は絶望の苦しみを自らが背負って4位に終わり、日本人選手が3位で銅メダルを手にした。

トウ・ビシユバツト

越出水月

❖ ユダヤの早春の祭

東京でも梅がほころびはじめ、春の陽気がやってきた。花粉が飛び始めてつらくもあるが、空気が緩んで新芽が膨らみ、新しい命が始まっていくような日々には自然と心が浮足立つのを感じる。

ユダヤ教にもそんな祭り「トウ・ビシユバツト」がある。正式には聖書由来の祝日ではなく慣習のよくなものだが、学校によっては休

みだったり、遠足に行ったり、気軽に皆生活の中に取り入れている。

トウ・ビシユバツトとは、ユダヤ暦のシユバツト月の15日、という意味。単に日付を指しているが、ただの日付ではなく、「樹木の新年」と訳される日だ。もともとは樹木に対する10分の1税を算定した日であり、ユダヤの口伝律法の中で「樹木の新年」として知られるようになったという。

こしで みづき ● フードコーディネーター。上智大学神学部卒業。2007年〜08年ハイファ大学、ヘブライ大学留学。帰国後フードコーディネーターに師事。現在独立し、イスラエル他各国料理イベントを開催、ケータリングも行なっている。

聖書時代、トウ・ビシユバツトは最初の果物をエルサレムの神殿に捧げる日だった。しかし神殿が崩壊しユダヤ人が離散するとトウ・ビシユバツトは象徴的な意味だけが残ったが、中世にツファツトのユダヤ教神秘主義者によって、過越祭のセデル（過越祭の最初の夕食で行なう儀式やハガダー（セデルの手順を書いた書）のような、決められた種類の果実を10種類食べるなどの作法が作られたという。それが代々に渡って、全世界に離散しているユダヤ人コミュニティに広がり、どの地域でも手に入

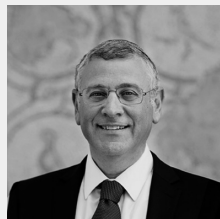
サムエル記講話

《サムエル記上17章》

ゴリアトとの戦い

ベニー・ラウ

(那須雄二訳)



הרב בני לאו

●ゴリアトの挑発

サムエル記には、これまでイスラエルとペリシテ人との戦いが2度記されています。最初の戦いはアフエクでの戦いです。その時にイスラエルは大敗を喫し、シロにあった神の箱が奪われました。戦場はエフライム族の嗣業の地の北西で、現在のロシュ・ハアインの近くです(4章)。次は、ヨナタンが山の尾根にあったペリシテ人の守備隊を破った戦いです。これはベニヤミン領の山上ミクマスで始まり、ユダの山地を西に下

り、エルサレムから西に約15kmの地点にある現在のラトゥルン(エマオ)にまで及びました(13~14章)。

3度目の戦いは、ユダの南西部にあるソコの丘とアゼカの丘の間にあるエラの谷へと舞台が移ります。ペリシテ人は、地中海沿岸の南にあるガザからヤツフォの北部まで支配を広げていました。彼らはあらゆる力を用いて南から北に、また西の海岸平野から東の山地へとイスラエル人を圧迫していました。最初の戦場は北方、次の戦いは中央部、そして今度の戦いは南方のユ

ダの低地、エラの谷です。

ペリシテ人は戦争のために陣営を集めた。……サウルとイスラエルの民も集結し、エラの谷に陣を敷いてペリシテ人との戦争に備えた。(1~2節)

現在、イスラエルの学校では遠足などでエラの谷へ行き、「あちらがペリシテ人の陣地、こちらがサウルの軍」と聖書の舞台に立って学びます。それほどダビデとゴリアトの話は有名ですが、この「奇妙な」戦いの話の本質は何なのか改めて考えて

現代ギリシア語で読む

新約聖書(1)

藤原豊樹

○相反する意味

新約聖書をギリシア語で読んで
いる人がギリシアを訪れると、す
ぐに気づくことがあります。それ
は聖書に使われている単語が、
現代のギリシアでも至る所に見ら
れることです。例えば、旧約聖書
の「出エジプト記」は70人訳ギ
リシア語聖書によれば ΕΞΟΔΟΥ

(ἐξόδος)〈エクソドス〉ですが、

現在では「出口」の意味として使
われ、公共交通機関などでは必ず
見ることができま(下写真)。

また新約聖書に繰り返し出てく
る動詞 ἐρχομαι〈エルホメ〉「来る」
は、今日でも聖書と同じ用法で使
われています。それで聖書のギリ
シア語を学ぶには、まず現代ギリ
シア語によってギリシア語に馴染

むほうがより効果的ではないか、
と思うようになりました。

例えば、以下のような2つの聖
句を読み比べてみましょう。

誰も、真新しい布切れで、古い
服に継ぎを当てたりはしない。そ
の継ぎ切れが服を引き裂き、破れ
はもっとひどくなるからだ。

(マタイ伝9・16、協会共同訳)



キリスト教の理想と現実

塩尻和子

● ユダヤ教の改革者イエス

ユダヤ教の神は、イスラエルの民にとつてのみ唯一の絶対者であり、歴史を支配する人格神であり、天地の創造主なのであるが、この限定された「神」を、生ける神として万人の父となしたのがキリスト教である。ユダヤ教徒ナザレのイエス（BC 6 / 4頃～AD 30頃）が、厳格な戒

律に疑問を持ち、ユダヤ教の改革を目指して戒律を超越する信仰を説いてまわった。神を「父のような身近な存在」であるとして「神の国」の教えを広め、下層階級から熱狂的に支持されたことから始まる。当時のパレスチナ一帯では、ユダヤ教の戒律を正確に遵守するためには、かなりの経済力を持つていことが必要であり、それが可能な人々は決して

多くはなかったからである。

「神の国」とはヘブライ思想では、異教徒や敵対する民族が滅びて正義の神が王として支配する、選民だけの理想的な正義の王国のことを指す。しかしイエスは、正義の王国ではなく平和と愛に満ちた神の国が実際に近づいていると信じて、子供のようになつて愛の王国に入ることと教えた。神を「父」と呼ぶことはユダヤ教時代にはなかったことで、ここから教父時代になつて、「三位一体論」が起こってくることになる。アバは「おとうちゃん」という程度の幼稚な表現であり、神の国へ入るためにも、子供のようになつて神に従うことを象徴的に示した。

イエスの出現以前にも、ユダヤ教の中に新しい教団が発生しており、そのなかに「死海文書」で知られる「クムラン教団」や「エッセネ派」、

ハラールとコーシエル

光永光翼

のは良いことである。

類似点と相違点

中東で発祥したユダヤ教とイスラム教には、それぞれに決められた食事規定がある。ユダヤ教ではヘブライ語で「適正」を意味する「コーシエル」(英語発音でコーシャ)

と呼ばれ、イスラム教では「許されている」という意味の「ハラール」と呼ばれる。当然ながら、この2つの宗教の食事規定にはそれぞれ異なるところがある。

ご存知のとおり、ユダヤ教ではワインやビールなどの飲酒はOKだが、イスラム教ではアルコール類の飲酒や使用が一切禁じられている。ユダヤ教では乳製品と肉類を一緒に食べてはいけないが、イスラム教にそのような規則はない。ユダヤ教徒は魚を食べるが、

意外な光景

昨年イスラエルに滞在していた際、ユダヤ人の友人が経営するレストランに招待された。ユダヤ教の食事規定をきちんと守り、料理はどれも美味しく、内装もお洒落で、ランチ時ともなれば席がなかなか空かない地元でも評判の店だった。ユダヤ人が多いのはもちろんのことだが、店内にはなぜかアラブ人の姿も多く見かけた。それも若者だけでなく、ヒジャーブを

被った年配の女性や子供を連れた家族も利用していた。

いわゆる伝統的なイスラム教徒がユダヤ人のレストランに足を運んでいるのが少し意外であり驚きだった。友人の説明によると、アラブ人にとってユダヤの食事規定を守るレストランは実は安心して食事ができる場所だそうだ。一年のアブラハム合意から中東では和平の兆しが見えつつある中、イスラム教徒がユダヤ人のレストランに安心して来ることができ

○ ギャラリー「イスラエルの風」が贈る今月の一枚 ○



「エルサレムの朝焼け」 撮影・平岡真一郎

エルサレムの旧市街、西の壁の正面には最高の朝焼けスポットがある。ここからは西の壁だけではなく、その向こう側に岩のドームとエルアクサ寺院が見え、さらに奥にはオリブ山頂に建つロシア正教の昇天教会が眺望できる。美しい朝日が三宗教の聖地を同時に照らしている。

★手漉き和紙にプリントした、絵画のような独特な雰囲気をもつ作品です★

サイズ

37×47cm ⇨40,000円

制作元：ギャラリー「イスラエルの風」
〒183-0042 東京都府中市武蔵台 2-18-24

お問合せは
ミルトスへ

世界を変えた15の物語

イノベーションの国 イスラエル

本号26頁～に
「序章」を掲載！

世界を変えた15の物語

イノベーションの国 イスラエル

アビ・ヨレシュ〔著〕
横田 勇人〔訳〕



ファイアウォールもアイアンドームも
イスラエルのイノベーションが生み出した。
ゼロからイチを創り出す発想力の秘密に迫る！

アビ・ヨレシュ〔著〕

横田勇人〔訳〕

四六判・並製 272頁 1,870円(税込)

目指すは“世界の修復”

「地上のすべての氏族はあなたによって祝福される」(創世記 12:3)

このアブラハムの契約が、現代イスラエルにおけるイノベーションとして果たされている!?

本書の焦点はイノベーションの技術そのものではなく、それらを発案したイスラエル人にある。彼らはどのようところからそれを思いつき、どんな苦難を乗り越え、どう成功へと導いたのか。また、結実したイノベーションは「世界の修復」にどのように貢献しているのか。15の発明秘話を紐解き、そのアイデアの源泉に迫る！

● 著者 ● アビ・ヨレシュ 《Avi Jorisch》

起業家、中東専門家、米外交政策評議会(AFPC)上級研究員。アラブ世界やイスラム過激主義、テロ対策、違法金融の国際的な動向調査を専門とし、米財務省と国防総省での勤務経験もある。米ビンガムトン大学で歴史学を学び、イスラエルのヘブライ大学でイスラム史の修士号を取得。エジプトのカイロ・アメリカン大学とアズハル大学でアラビア語とイスラム思想を学んだ。ニューヨーク・タイムズ、ウォール・ストリート・ジャーナル、アルアラビーヤなどに寄稿している。